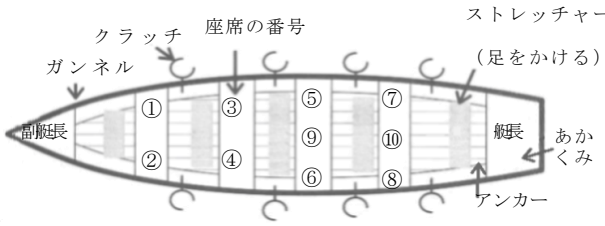
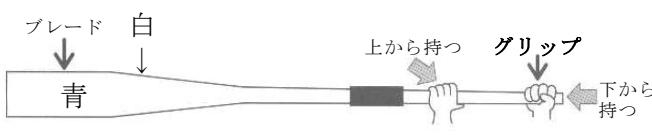
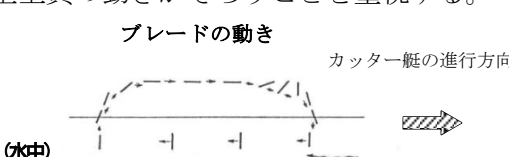
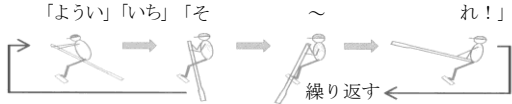
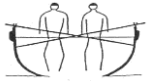
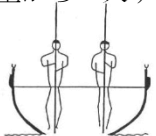


カッター活動指導者実技指導要領

	流れ (□艇長・副艇長、◎児童)	解 説
準備	<ul style="list-style-type: none"> □クラッチが外されているか確認する。 □フェンダーが外に出ているか確認する。 □オールは番号が見えるように両端に寄せられているか確認する。 □アンカー、あかくみが所定の場所にあるか確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・乗り込み時の安全のため ・カッター艇を破損しないため ・乗り込み時の安全のため ・緊急時の対応のため
乗艇	<ul style="list-style-type: none"> ◎2列に整列する。 ◎艇長、副艇長(サポーター)とあいさつをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・先に乗る人は前に並ぶ。 ・児童の顔色や表情を見て体調などを観察する。 ・救命胴衣がきちんとつけられているか(ひも・ファスナー)や乗船児童数を確認する。 ・座席の番号の確認をする。
	<ul style="list-style-type: none"> □乗り方を示す。(艇長) <ul style="list-style-type: none"> ・番号の大きい児童から1人ずつ乗る。(8番→1番 乗り終わったら次の児童) ・低い姿勢で移動する。(立ち上がらない) ・ガンネルを持たない。 ・乗り込み時、艇長席から児童の安全を十分監視する。 □乗り込みの補助をする。(副艇長) <ul style="list-style-type: none"> ・カッター艇の中から補助をする。 ・陸上にいる指導者およびF S職員も補助に入る。(2人での補助) 	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的にイメージできるように、艇長が示す。 ・カッター艇がバランスをくずさないため ・栈橋や隣の艇で指をはさむ危険性があるため 
出艇	<ul style="list-style-type: none"> □活動水域まで出る。(艇長と副艇長で協力する。) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>クラッチ：オールをはめる部分 フェンダー：カッター艇の周囲の緩衝材 ガンネル：カッター艇のふちの部分 ラダー：舵 (レバーで操作) ブレード：オールの先の平らな部分</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・「1本がい」または「2本がい」で活動水域まで出る。(風向きを考えて場所を決める) ※かいは短めに持つと操作しやすい。
	<ul style="list-style-type: none"> □ラダーをつける。(外してある場合) ◎クラッチをつける。 ◎オールをクラッチにはめる。 □オールの使い方の指導をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・持ち方。 ・ブレードの向き。 □カッター艇が左右どちらかに傾くときは、艇長が座る場所を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・上下ともはまっていることを確認(下からつける) ・足で押さえながらゆっくり。 ・内側は下から(逆手)、外側は上から(順手)。 ・ブレードの青い面が自分に見えるようにする。  <ul style="list-style-type: none"> ・ブレードの面を水面に対して垂直にする。(包丁で水を切るように) ・ブレードの面が水面に対して水平になっていると水をかくことができず、「腹切り」になり危険。 ・「腹切り」になった時の、ブレードの抜き方(オールを回転させる)を指導する。 ・ブレードを水中に深く、長く入ると扱いにくい。 ・児童全員の動きがそろふことを重視する。 

<p>□漕ぐタイミングの指導をする。 (艇長)「ようい」…準備を確かめる (1ストロークごとに、全員が準備できていることを確認する。) 「いち」…スタート (児童)「そーれ！」</p> <p>□左右の人数が異なるなど漕ぐ力のバランスが悪い場合は副艇長が補助に入り、漕ぐ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・初めはゆっくりでよい。まずはタイミングを揃えることが大切。 ・タイミングを揃えるためのかけ声であるので、準備ができるまでしない。 ※タイミングを揃えるためにもかけ声は変えない。 ・動きは大きくしない。 ・風上に向かって進む。 ・活動水域から出ないように注意する。 ・漕ぐ回数がわかる声かけをする。(あと〇回) ・カッター艇が進んでいる感覚を感じられるよう続けて漕ぐ。(20回以上漕げると良い) <p>「ようい」「いち」「そーれ！」</p> 
<p>□「かい組め」の仕方の指導をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・オール先端を隣の児童と組む。 ・休憩のため、琵琶湖を体感するために行う。(風を感じる、においをかぐ、波を感じる) ・水象の良好な時のみ実施 ・自己紹介やフローティングスクールについての話など、和やかな雰囲気。 
<p>□「かい立て」の仕方と意味の指導をする。 ・着岸時にする。</p>	<p>※帆の役目をし、風により流されることがあるため、着岸時のみ行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初めの「かい立て」は大きい番号の児童から一人ずつ順に。(状況によって手伝いあう) ・靴、ひざではさみ、両手でしっかり持つ。 ・オールを棧橋に当てないため。 
<p>着艇</p> <p>□係留場所までもどる。 ◎係留場所に近づいたらスピードをゆるめ、「かい立て」をする。(副艇長はロープを陸上指揮者またはFS職員に投げる)</p> <p>□ラダーを外す。(砂浜での会場は全てのローテーションで、棧橋・岸壁での会場は最終ローテーションで外す)</p> <p>◎「かい収め」をする。</p> <p>◎クラッチを外す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・スピードに注意する。(遅すぎず速すぎず) ・外したラダーは艇長の席に置く。 ・大きい番号の児童から手伝いあって、ゆっくり収める。 ・艇が揺れ転倒した時の大けがにつながるため
<p>降艇</p> <p>□降り方を伝える。(艇長) ・番号の小さい児童から1人ずつ降りる。(1番→8番 完全に降りてから次の児童) ・低い姿勢で移動する。(立ち上がらない) ・ガンを持たない。 ・降りる時、艇長席から児童の安全を十分監視する。</p> <p>□降りる時の補助をする。(副艇長) ・陸上から補助をする。 ・陸上にいる指導者(誘導者、陸上指揮者)および所員も補助に入る。(2人での補助)</p> <p>◎あいさつをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・艇長が番号で指示。 ・カッター艇がバランスをくずさないため。 ・棧橋や隣のカッター艇で指をはさむ危険性があるため。 ・艇長は児童が降りた後にカッター艇から降り、児童を整列させ、健康確認と反省を行った後、終了の挨拶をする。
<p>安全の確保</p> <p>※風上に向かって進む。</p> <p>※漁船やプレジャーボートの動きに注意する。</p> <p>※他のカッター艇に近づきすぎない。</p> <p>※えりやヨシ原などに近づかない。</p> <p>※活動水域から出ない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・旗や木々の様子を見て風向きを知る。万が一強風に流された場合は、FS職員の指示により、アンカーを投入して救助を待つ。 ・ひき波は前から受ける。 ・陸上指揮者の連絡が頼り。(副艇長を通じて) ・衝突の危険性があるため。 ・抜け出せなくなる可能性があるため。 ・陸上指揮者の指示に従う。

